デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2022年（令和4年）10月21日（金曜日）（12）

地域と共に歩む
八戸工業大創立50周年

③ 地域連携

学生の枠超え人材育成

八戸工業大は工学系の高等教育機関として多くの人材を輩出し、地域のものづくりを支えてきた。近年は八戸市中心街に番町サテライトキャンパス（通称ばんらぼ）を開設し、マチナカ公開講座などを通し、学生の枠を超えた地域の人材育成にも取り組んでいる。

同大の卒業生は今年3月末現在で1万9712人。卒業生は工業や教育などさまざまな分野で地域を担う人材として活躍する。

金型製作を手がける五戸町のサンライズエンジニアリングの赤坂大樹社長（47）も卒業生。「大学では勉強だけでなく、先輩や教授らとの関係性を築くことができた。その関係性はいまだに仕事に生きている」と感謝する。卒業生同士での仕事も多く、信頼感も大きいという。「八工大が地域に欠かせない場所になっている」と強調する。

産学官金の連携でも大学の技術や知識を提供し、地域に貢献。八戸市立市民病院と共同開発した自走式移動型緊急手術室「ドクターカーV3」は前年度、救急医療の救命率向上に貢献している点が評価され、文部科学大臣表彰の科学技術賞を受賞した。新型コロナウイルスに関する医療現場の支援や防災研究などさまざまな課題解決に取り組む。

市民らに学びの場を提供し、生涯教育にも力を入れる。建設業田名部組（同市）と共に設置した、ばんらぼでは、週末を中心にマチナカ公開講座を開催。前年度からは学生以外に学習課程を提供する「履修証明プログラム」も行う。

また、29日まで「八工大まちなかキャンパス」と題したイベントも展開中。創立50周年を祝う展示や体験型講座などを連続的に行っている。22、23日には市庁前広場などでステージ発表や展示に加え、学内さながらの模擬店が並ぶ「まちなか学園祭」を開く。地域への感謝と共に育んできた絆を示す場にしたい考えだ。

ばんらぼで行われているマチナカ公開講座。市民の学びにも力を入れている＝4月9日、八戸市のばんらぼ

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。